

石川県立鶴来高等学校

学級数：10学級 生徒数：249人

【テーマ】

がんに対する基礎知識と現状を学習し、予防と共生に取り組める生徒の育成を目指して

1 はじめに

がん教育として特別に取り組んできた実態は無いが、保健領域「生活習慣病とその予防」の学習において、過去と現在、そして未来のこととして、様々な取り組みがなされていることを調べ学習として行っていた。

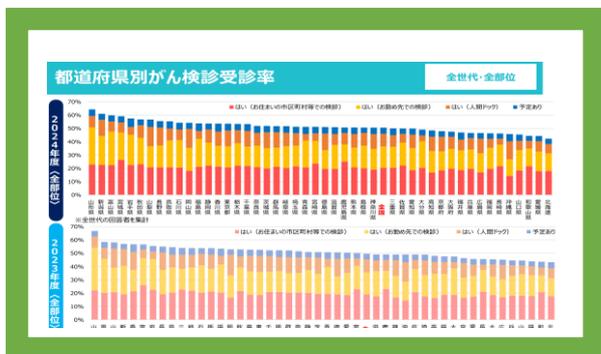
今回、経験者による体験談と、がんとの共生について、授業で詳しくお聞きできるので、学習の深まりを期待したいという願いをもって取り組んだ。

2 実践

(1) 科目（保健）における基礎知識の定着

がんに罹る率や具体的な数字、回復への確立など、これまでのデータを基に授業を行い、現状を把握させる。

当日の研究授業では、主に石川県のがん検診受診者数や全国との比較、また月別の受診者数の推移、がん検診を受診しない人の理由などを理解し、共感させながら身近な問題としてテーマにせまることができるように行った。



(2) がん経験者とのT・Tによる授業

経験者 橋典孝さんと、事前の打ちあ

わせをし、こちらがお聞きしたい項目とお話ししたい項目を合わせて、

- がん発見の経緯
 - その時の治療法
 - 療養期間
 - なにが原因だったと思うか
 - 当時のリハビリについて
 - がんとの共生について、今の心境は
- という質問に対し、丁寧にお答え頂いた。なかでも最後の問いに対しては「人生に正解はない、選んだものを正解にしたい」と、がんを経験された方の言葉として、とても重みを感じ、生徒達にも十分に伝わっていた。



その体験談をお聞きした上で、もし身近な人が罹患したら、どんな声掛けが出来るかというグループ学習を行った。まず個人で考え、書いた用紙をランダムに渡し、教師がストップをかけた時のペア同士で点数化していくという方法で、自身が考えたものとは違うのだろうが、他の意見を見ながら、学習の深まりやもしもの時の声掛けとして、当事者意識を持ってもらえるように取り組んだ。参観に来られた先生方とも交流し、参考にしていた。

(3) 生徒の感想

・ 生徒 A の感想

こんなに身近に「がん」がせまっているのに、なにも対策していないことに気づいた。生活習慣からの影響も大きいようなので、今日から注意していきたい。

・ 生徒 B の感想

私はおじいちゃんをがんで亡くしています。橋さんのように回復した人もいますが、そうじゃない人もいます。早期発見早期治療が大事なんだと思った。

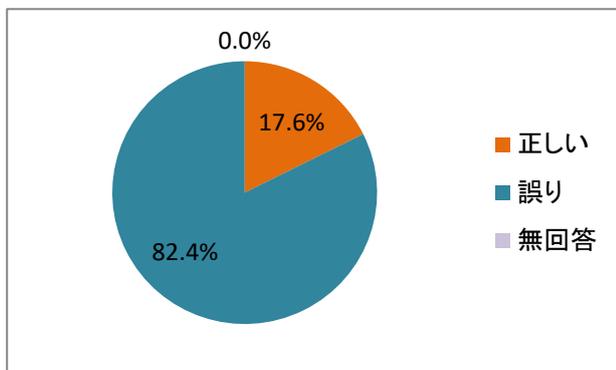
・ 生徒 C の感想

僕の母は今「乳がん」と闘っています。何をどうしていいかわからないけど、やれることをやろうと思えた。

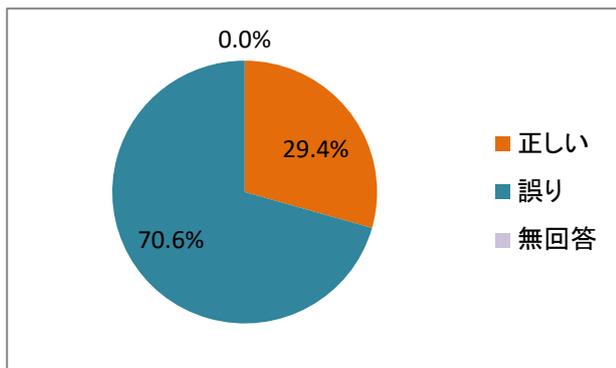
3 生徒アンケートの結果

問 h がんの痛みは我慢するしかない

【実施前】



【実施後】



事前事後アンケートで思わぬ結果となった。「がんの痛みは我慢するしかない」と答えた生徒が増えていたことだ。これについては、生徒たちに確認したところ、身近にせまっている、あるいは多くの人が罹るなら、我慢することも大事なのではないか、というスポーツ科学コース生らしい解釈であったことが要因で、改めてそうではないことを指導する機会となった。

4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

やはり経験者や関係者の関りは絶大だということ。そして、私自身もよく理解していない中で、数値だけで授業をしてしまっていたという反省を正すことができたことが挙げられる。ここでいう成果とは違うかもしれないが、橋さんとの打ち合わせでもお聞きしていた「私たちを活用してくださることで、自己効力感が増した」という言葉に、遠慮せずにもお願いしてもいいんだと感じた。当然配慮すべきことを押さえてだが、今後も協力を仰いでいきたい。

◆◆課題◆◆

ゲストティーチャーをお招きする上での、タイミングと内容について配慮が必要である。今回、別のクラスでも行う予定だったが、近々でご家族をがんで亡くされた生徒がいて、どうしてもやらないでほしいという申し出があった。学習単位として取り扱うべき項目ではあるが、特別な配慮が必要でもある。受け入れる準備を、本人ご家族とも確認することを怠らないよう、あるいはアフターケアをしっかり行うことを忘れずに行っていきたい。